

◆日根野聖子 選

「八木健の俳句遊遊」の番組で、御意見番的な存在としてご出演の小西昭夫先生。小西先生は、愛媛新聞の俳壇選者であり、『子規新報』の編集長としてもご活躍。毎年五月に俳句とアートの作品展を開催され、毎回その会期中に披露される、俳句とコメントの朗読作品「チンピラ」シリーズの第四弾です。

「チンピラⅣ」

小西昭夫

昨年は夏目漱石生誕一五〇年の年でした。

マドンナの隠れ煙草や道後の湯

雲はいろいろの形に見えます。夏の雲は入道雲といますが、よく見ると、  
入道というよりゴジラ夏の雲

昔はたくさんの蠅がいました。

あればよし無ければないで蠅叩

フラ・ダンスのカルチャーへ行って妻は留守です。

昼飯は自分で作る冷そうめん

「いざ鎌倉へ」は武士のならいであります。

蝸牛鎌倉まではちと遠い

お盆は死者だけでなく、目上の人を目下の者がもてなす行事でもあります。それを生身魂といますが、最近では高齢者を指すようにもなってきました。高齢者を敬い、その生命力にあやかるのが本来の意義です。

下ネタが生きる力や生身魂

漱石の「三四郎」では正岡子規は一度に十五、六個も食べた様です。ぼくはその半分です。

一二三四五六七八かきくけこ

大正天皇に「俳句とはどのようなものか」と聞かれた松根東洋城は、「渋柿のごときものにては候（さうら）へど」の句を残しています。

友情もまた渋柿のごときもの

夢は無意識の世界の表現です。

**暖房の入れ始めなりへんな夢**

図形の俳句を作ってみました。

**初夢の○×△□かな**

御存じのように縁起のいい初夢は「一富士、二鷹、三茄子」と言われています。

**初夢に富士なし鷹なし茄子なし**

いつまでも眠っていて欲しいのですが…。

**すこやかに眠っておるか蛇・蜥蜴**

さむくなると、やっぱり熱燗がいいです。

**熱燗や一人またよし二人よし**

それとも、こちらの句の方がいいでしょうか。

**熱燗や二人またよし一人よし**

要するに熱燗が好きなのです。

**熱燗の話大きくなるばかり**

恋は猫だけの特権ではありません。

**猫の鳴く声ありバレンタインの日**

恋をしない猫もいるにはいます。

**猫柳猫であること忘れけり**

暑い一日でした。やっと帰ってきて冷蔵庫を開けました。

**一本のビールも冷えておらぬなり**

お終いでございます。

**チンピラはきんぴらじゃない亀が鳴く**

◆伊藤洋二 選 ～宝井其角の俳句より～

**稲こくやひよこを握る藁の中**

川柳川柳（かわやなぎせんりゅう）師匠の「笑話歌謡史」を久しぶりに拝聴した。スイングジャズの定番、グレン・ミラーの「茶色の小瓶」を口喇叭で奏で

---

る芸は誠に名演である。続いてお待ちかね木製足踏み脱穀機「ガーコン」の登場である。ジャズの四ビート ♪ガーコン♪ガーコン♪。稲藁を握る力加減は、ゴルフのグリップ同様、ひよこを両手で包む如く優しくそっと。

#### 夕日影町半（なか）にとぶ胡蝶哉

蝶々は飛び去った後、暫くすると又元に戻ってくる。「蝶道」と云うのがあり、ある決まった道筋を飛ぶが、これは雄が雌との出会いを多くする為らしい。夕暮れになってもまだ飛んでいるのは、出会いがなく必死に相手を探しているのかもしれない。

#### 川上は柳か梅か百千鳥

♪私しゃ真室川の梅の花コーオリヤ、あなたまたこのまちの鶯よ♪ ご存知、[山形県](#)最北部に位置する[真室川町](#)の[民謡](#)「正調真室川音頭」である。子どもの頃から唄が大好きだったが、叔父さん伯母さん達に受けたのがきっかけで、座敷の宴席でよく披露したものである。

#### ふれみぞれ柵の花の七日市

ヒリヒリと痛むことを「疼(ひいら)ぐ」と言うが、これが「柵(ひいらぎ)」の語源である。柵の花言葉は「用心深さ」。葉に棘があるため防犯目的で生垣に利用されたりもする。古くから[邪鬼](#)の侵入を防ぐと信じられ、家の表鬼門（北東）には柵、裏鬼門（南西）には南天を植えると良いとされている。